

| 教材教具および題材 | 学部 | 授業名・集団名 (主たる教科領域) | 執筆者 |
|-----------|----|----------------------|------|
| ホッケー | 高 | 体育 Ⅱグループ | 中村健一 |

<ねらい>

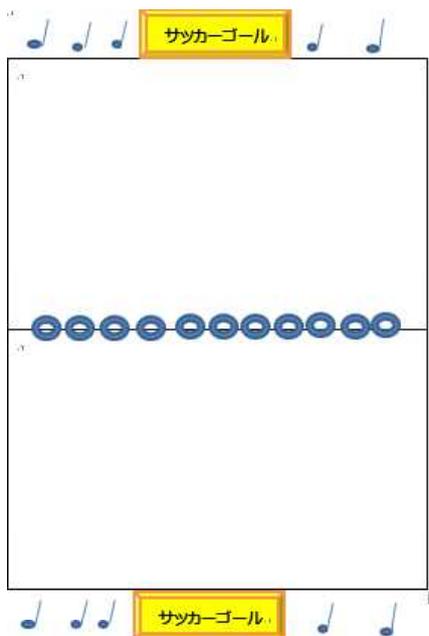
- ①様々な運動経験を通して、基礎的な運動能力や体力の向上を図る。
- ②活動に見通しをもって、意欲的に体を動かすことができる。
- ③道具を正しく扱い、指導者や友達と一緒に簡単なゲームを楽しむことができる。

<内容(作成方法・使用方法・工夫点など)>

2学期途中(10月上旬)から3学期にかけて、ホッケーに取り組んだ。グループの実態は、全体の説明を聞いて自分から意欲をもって取り組める生徒から、個別の言葉かけが必要な生徒までさまざまである。そのような実態から、約半年間と長い時間をかけて、スティックの持ち方やしっかりとコントロールしてのドリブル、シュートなど、練習から丁寧に取り組んできた。

取り組み方は以下の通りである。

- ①ドリブルの練習(2時間)
 - ・正しく両手でスティックを持ち、コントロールしながらまっすぐ進むことを意識させる。
- ②ドリブル～シュートの練習(4時間)
 - ・前回からの流れに加えてゴールを設置し取り組み、しっかりと狙って確実にシュートする。
 - ※約束スティックは腰より上に振り上げないこと。
- ③ゲームに向けての練習(4時間)
 - ・ゲームで使用するコートを使い、スタート～ドリブル～シュートの一連の流れで取り組ませた。
 - ※対戦形式にはせず、1チームずつ取り組ませた。
- ④ゲーム(4時間)【図参照】



■流れとしては、

- ①体育座りの姿勢からスタート。
- ②コート中央のパックを取りドリブルしてシュート。(ゴール)
- ③再びコート中央のパックを取りにきてシュート(ゴール)する。

- ・その他、ルールなど
たくさんパックをゴールできたチームの勝ち。
最後に生徒をコート中央に整列させ、結果発表。
フィールドはバスケットコートで行った。
1チーム4～5名ずつの計5チーム。
スタート時の姿勢は体育座り。
※フィールドの外からスタートさせる。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- 様々な実態の生徒がいた為、ローカルルールของホッケーのゲームではなく、独自のルールで行った。一度もパックに触れることのできない生徒がでることなく、全員が課題に取り組めた点良かったと考える。しかし人数が多かったため待ち時間が長い時があり間延びする時があったので、その点は課題が残る。

<その他（材料、費用、購入先等）>

- スティック×5 • パック×11 • フットサルゴール×2